

スーパー中枢港湾を核としたコンテナ物流の総合的集中改革プログラム

経緯

- 平成16年度から、アジア主要港を凌ぐ我が国港湾のコスト・サービス水準を実現し、国際競争力の強化を図るためのスーパー中枢港湾プロジェクトを実施。
 - ⇒ 平成22年度までに「港湾コスト3割削減、リードタイムを1日程度へ短縮」を実現
- 平成21年度からは、コンテナ物流全体での荷主の利便性向上に軸足をおき、「港湾のサービス水準の更なる向上と国内外をつなぐ効率的・低炭素型のシームレス物流網の形成」を目指す

基本的考え方

～3年間の“目標達成型”モデル事業による効率的かつ低炭素型の物流ビジネスモデルの確立～

- スーパー中枢港湾プロジェクトの充実・深化を更に進めていくため、経済団体等との協働のもと、港湾を核とした物流を総合的に改革していく先導的な官民協働プロジェクトを推進するためのモデル事業を実施
- モデル事業の実施中は、ビジネスとしてサービス提供が可能となるよう、一定の公的支援を実施
 - ⇒ 3年間でモデル事業を終了→自立的・継続的な物流サービスの提供

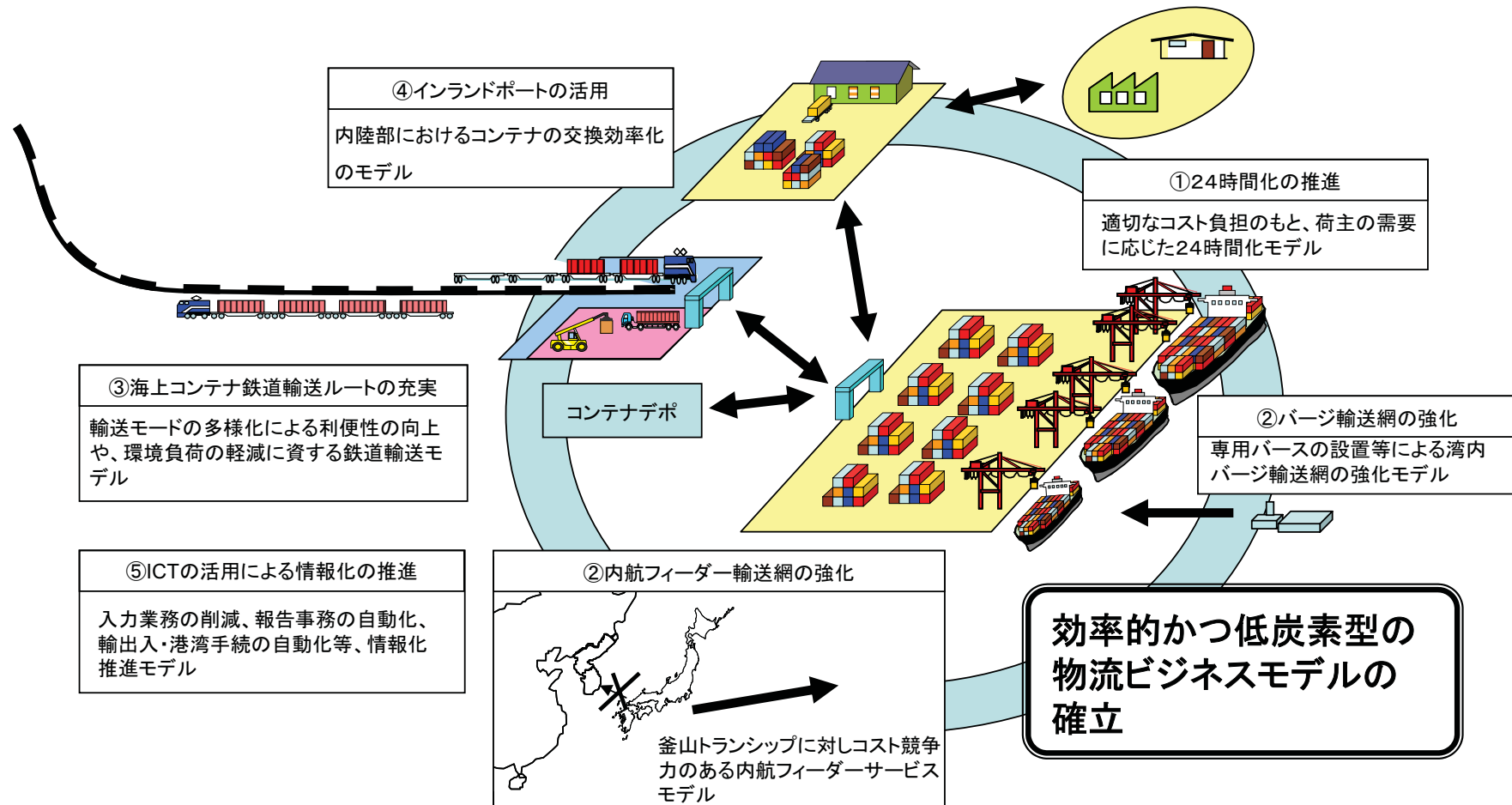
コンテナ物流の総合的集中改革プログラム(経済団体等との共同プロジェクト)

～3年間の“目標達成型”モデル事業による効率的かつ低炭素型の物流ビジネスモデルの確立～

施策	具体的取組み	平成20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
①コンテナターミナルの24時間オープンの実現に向けたモデル事業	○スーパー中枢港湾の主要ターミナルにおいて、適切なコスト負担のもとでの荷主の需要に応じたモデル事業の実施(神戸港等)	実施体制構築 協議会設置	モデル事業			実現
②海外トランシップに対し競争力ある内航フィーダーサービス等の実現に向けたモデル事業	○内航フィーダー輸送網の強化 ・神戸港－中・四国 等 ○バージ輸送網の強化 ・京浜港－千葉港 ・大阪港－神戸港	実施体制構築	モデル事業			実現
③スーパー中枢港湾から内陸に向けた鉄道サービスの充実に向けたモデル事業	○海上コンテナの鉄道輸送ルートの充実 ・京浜港－内陸部	実施体制構築	モデル事業			実現
④空コンテナ輸送効率化のためのインランドポート活用モデル事業	○インランドポートの活用等による内陸部におけるコンテナの新しい流通システムの確立	実施体制構築	モデル事業			実現
⑤物流業務の徹底効率化に向けた情報化推進モデル事業	★港湾関連手続の簡素化・統一化 ★出入管理システムの構築 ○情報システム、電子タグ等の情報通信技術(ICT)の活用による事業者業務の徹底効率化及び手続の自動化	貿易手続改革プログラム 集中改革期間	施設整備・順次実現			実現

○:集中改革プログラムでの実施事項 ★:連携施策

コンテナ物流の総合的集中改革プログラムのイメージ



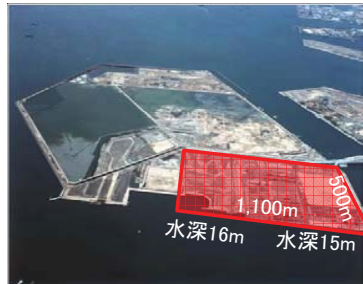
メガオペレーターが運営する埠頭

	京浜港	伊勢湾		阪神港	
特定国際コンテナ埠頭	横浜港本牧ふ頭 BC突堤間CT	名古屋港飛島ふ頭 南側CT	四日市港霞ヶ浦CT	大阪港夢洲CT	神戸港ポートアイランド (第2期)CT
運営者名	横浜港メガターミナル(株)	飛島コンテナ埠頭(株)	四日市コンテナターミナル(株)	夢洲コンテナターミナル(株)	神戸メガコンテナターミナル(株)
認定日	H17.8.5認定	H17.8.15認定	H17.12.15認定	H17.11.16認定	H17.11.8認定

阪神港(大阪港・神戸港)



神戸港ポートアイランド
(第2期)CT



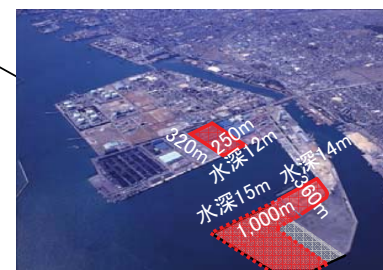
大阪港夢洲CT

京浜港(東京港・横浜港)



横浜港本牧ふ頭BC突堤間CT

伊勢湾(名古屋港・四日市港)



四日市港霞ヶ浦CT



名古屋港飛島ふ頭南側CT16

